

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

70th
CHUKYO
UNIVERSITY

中京大学スポーツ

Vol.28

2024 5月号



中京大学スケート部撮影

世界フィギュア／四大陸選手権

宇野昌磨／鍵山優真／山本草太／三浦璃来／木原龍一

スキーW杯

堀島行真／木村葵来

ショートトラックW杯／世界選手権

吉永一貴／平井亜実／林康生／中島未莉

スポーツクライミング

高尾知那

愛知 大学野球リーグ 59年ぶりの完全試合達成

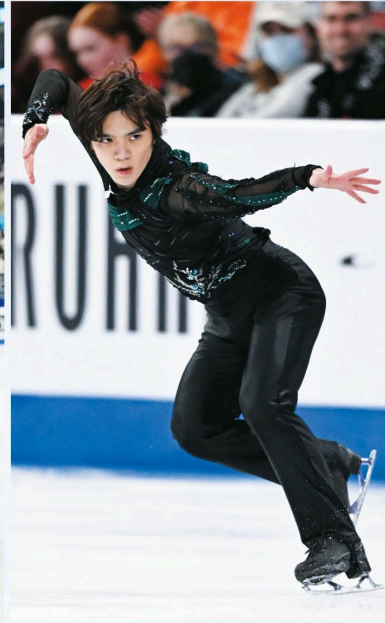
高木快大

パリオリンピックへの道のり

全日本フィギュア
表彰台
独占!!



三浦璃来選手と木原龍一選手 ©共同通信社



宇野昌磨選手 ©共同通信社

活躍する たち!!

山本草太選手 ©共同通信社



鍵山優真選手(左) ©共同通信社

フィギュアスケート 世界選手権・四大陸選手権

フィギュアスケートの世界選手権大会が3月18〜25日、カナダ・モントリオールで開かれ、男子シングル種目では鍵山優真選手(スポーツ科学部3年、オリエンタルバイオ)が2位に、宇野昌磨選手(トヨタ自動車)は4位入賞を果たしたものの、目指していた日本男子初の3連覇には残念ながら届かなかった。

ショートプログラム(SP)で2位になった鍵山選手は、フリーでも冒頭から4回転ジャンプを立て続けに成功させるなど素晴らしい演技を披露したが、転倒もあって惜しくも表彰台の中央とはならなかったが、2年ぶり3度目の銀メダルに輝いた。

また、ペア種目では三浦璃来選手(スポーツ科学部4年、木下グループ)、木原龍一選手(スポーツ科学部2014年度卒、同の「リクリゅう」)ペアが銀メダルを獲得した。惜しくも2連覇達成はならなかったが、フリーでは自己ベストを更新した。

その前に行われた四大陸選手権でも、男子シングルに出場した鍵山選手が合計307.58点の高得点で初優勝を飾った。表彰式後は、「しっかりと滑りきることができてホッとしています。素直に喜びたいです」と笑顔を見せた。

SP 94・44点で4位につけた山本草太選手(スポーツ科学部2023年度卒)はフリーも168.99点で4位、合計263.43点で4位となり、惜しくも表彰台を逃した。



「スキー競技ワールドカップ」

フリースタイルスキーのモーグル男子で堀島行真選手（スポーツ科学部2020年度卒、トヨタ自動車）が2023―24シーズンの種目別優勝に輝いた。堀島選手は今季、当初から安定した成績を積み重ね、3月8日にカザフスタン・アルマトイで行われたフリースタイルスキーワールドカップ（W杯）のモーグル第14戦でモーグル2位に入賞し、初めての種目別優勝を果たした。堀島選手は今季のモーグル8戦で3勝し、2位に2度、3位に1度入賞するなど表彰台常連の活躍をしており、4勝しているモーグルの第一人者ミカエル・キングスベリー選手（カナダ）を総合ポイントで上回った。

デュアルモーグルを合わせた総合はキングスベリー選手が12度目の優勝をし、堀島選手は総合2位だった。2022北京五輪で銅メダルを獲得している堀島選手の2026ミラノ・コルティナダンペッツォ五輪での活躍を楽しみにしたい。

在学生の活躍も目が離せない。スキー競技部の木村葵来選手（スポーツ科学部2年）はスノーボードビッグエア競技で今シーズンのW杯総合優勝を飾った。北京五輪の金メダリストを抑えて果たした快挙だった。

木村選手は「ビッグエアの総合優勝はともうれしいです」と笑顔をみせ、スロープスタイル競技のワールドカップでの活躍も目指していた。



堀島行真選手
©共同通信社



木村葵来選手



林康生選手（左）

ショートトラックスピードスケートの2024ISU世界選手権大会が3月15〜17日、オランダ・ロッテルダムで開かれ、男子の林康生選手（スポーツ科学部3年）、吉永一貴選手（同2021年度卒、トヨタ自動車）、女子の中島未莉選手（同3年）、平井亜実選手（同2019年度卒、トヨタ自動車）が日本代表として出場した。

林選手は1500メートルで4位に入賞し、惜しくも表彰台を逃したものの、2026五輪への期待度が増した。また、日本チームは男女ともにリレー種目で健闘。こちらも表彰台には届かなかったものの、男子は5000メートルリレーに

ショートトラック ワールドカップ・世界選手権

吉永選手が第2、林選手は第3滑走者として出場し、5位に入賞した。一方、女子は平井選手がスタートを、中島選手が続き、前半を中京大勢が担って7位に入った。

また、ショートトラックワールドカップ（W杯）では、林康生選手が2月18日にボールド・グダニスクで行われた第6戦の男子1000メートルで3位入賞し表彰台に立った。さらに吉永選手とともに臨んだ5000メートルリレーでも3位に入った。5000メートルリレーの日本チームはその1週間前の同月11日には、ドイツ・ドレスデンでのW杯第5戦でも同メンバーで2位入賞を果たした。

世界で 選手

林康生選手



中島未莉選手



選手たち!!

大会での躍



フィギュアインカレ 女子団体優勝、鍵山選手優勝

第96回日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）のフィギュアスケート競技が1月4日から7日にかけて群馬県前橋市で開かれ、女子は団体戦でトップに立ち、フィギュアスケート競技部門で2年ぶり5回目の優勝に輝いた。また男子個人で鍵山優真選手（スポーツ科学部3年）が頂点に立った。

団体優勝の女子は、松生理乃選手（スポーツ科学部2年）が5位、河辺愛菜選手（同）が6位、横井きな結選手（同）が7位と3選手が入賞を果たし、各選手の成績をポイントに換算し競う団体戦で93点を獲得、2位

の日本大（79点）、3位の法政大（76点）を上回った。

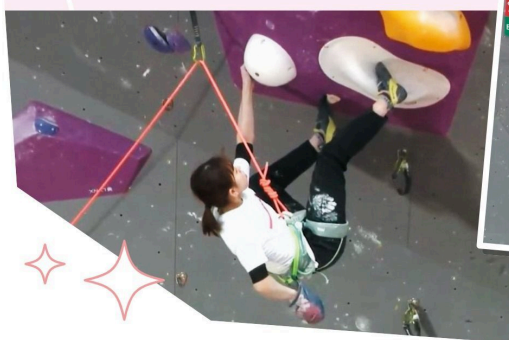


スポーツクライミング 高尾選手がリードジャパンカップ5位

スポーツクライミングのリードジャパンカップ2024が2月23〜24日、佐賀県で開かれ、高尾知那選手（スポーツ科学部2年）が5位に入賞した。高尾選手は小学1年の時にスポーツクライミングに出会い、10月に行われたI F S Cアジアユース選手権大会で初優勝を果たした。

「緊張や不安もありましたが、粘り強い登りができたことが一番嬉しいですね。日本代表選手になることを目標に掲げてトレーニングを積んできたので結果につながったと思います」と述べた。2024シーズンのワールドカップ代表に

選出された高尾選手。「今大会で新たに課題が見つかったので、これから世界で活躍できるようにさらにレベルアップしていきたいです」と力強く語った。





ひかり輝く

国内活

サッカー部 インカレベスト8

サッカーの2023年全国大学選手権大会(インカレ)が12月7〜24日、東京・AGFフィールドなどを会場に開かれ、2回戦から登場した中京大は日本大に1-0で勝利し、ベスト8進出を果たした。この大会はインカレ応援イベントと銘打っており、在学生約1000人が現地で応援に駆けつけ、勝利への後押しをした形となった。サッカー部選手会長の加藤希夢さん(現代社会学部2023年度卒)は「サッカー部以外の学生もともに応援することができて良かった。継続的なイベントになつてほしい」と話した。

3回戦は0-2で筑波大に敗れた。



体育会功労賞授賞式を開催

2023年度の体育会活動で功績のあった団体や個人を表彰する体育会功労賞授賞式が3月14日、豊田キャンパスで開かれた。受賞したのは、第58回全日本大学女子ソフトボール選手権大会で優勝した女子ソフトボール部をはじめ12団体と、世界大会や国内の主要大会で活躍した個人84人で、式には受賞者やクラブ指導者ら約130人が参加し、高橋繁浩体育会長から表彰状が授与された。また、体育会学生の中で優秀な学業成績を収めた3人に体

育会長賞が、功労賞受賞者の中で最も学業成績が優秀だった選手1人には体育会功労賞特別賞が贈られた。式の冒頭には、梅村義久副学長、高橋体育会長が受賞者に対して「皆さんの素晴らしい活躍、誠におめでとうございます。梅村学園創立100周年、中京大学の開学70周年という節目の年に、学術とスポーツの真剣味の殿堂たれや四大綱を体現された結果です。今後の活躍も祈念しています」と祝福の言葉を述べた。

ラグビー部大学選手権創部史上初勝利

ラグビー部は2023年度、第60回全国大学選手権大会に25大会ぶり15回目の出場を果たし、悲願の初勝利を達成した。

10月29日に東海学生Aリーグで14大会ぶりの優勝を決めたことで、創部史上初となる快挙は始まった。11月11日には中国・四国地方代表の環太平洋大に29-10で勝利して全国の舞台へ。そして1回戦は同月29日、名古屋市のパロマ瑞穂ラグビー場で行われた。対戦相手は北海道・東北地方代表で5大会連続出場中の八戸学院大。会場が地元

名古屋ということもあり、OBをはじめ多くの人たちが詰めかけた。その応援を背に終始自分たちのプレーを貫き、76-22の大差で快挙を成し遂げた。続く2回戦はその1週間後、福岡市のベスト電器スタジアムで九州代表の福岡工業大と対戦。

21-29で惜敗したもの、中京大の強みであるスクラムを全国に見せることができた試合だった。



パリオリンピックへの道のり



競泳の谷口選手と村佐選手日本代表に選出

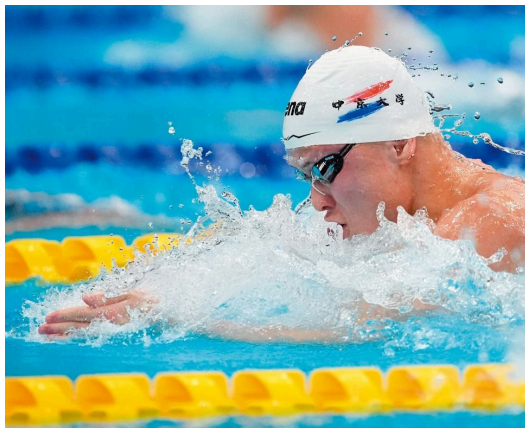
コロナ禍で行われた2021年の東京オリンピックから3年、スポーツファンの間でパリ2024オリンピックへの期待が高まってくる中、競泳のパリオリンピック代表選手選考会が3月17〜24日、東京アクアティクスセンターで開かれ、谷口卓選手（スポーツ科学部2023年度卒）と中京大の中京高の村佐達也選手（3年）が日本代表に選出された。両選手ともに五輪初出場となる。

選考会には派遣標準記録が設定されており、決勝での記録を上回って2位までに入ると、その時点で代表内定となるルールで行われた。

男子1000メートル平泳ぎの谷口選手は大会初日に予選、準決勝を安定した泳ぎで決勝に進出した。翌日の決勝。スタートから好位置をキープ。折り返した後半も伸びをみせ、1着でゴールした。水泳部の佐々木祐一郎コーチが「記録を伸ばしている選手」と話していた通り、優勝タイム59秒43の自己ベスト記録で泳ぎ切ったが、派遣標準記録に0秒17及ばず、惜しくもこの段階での代表内定には届かなかった。また、男子200メートル自由形の村佐選手は大会第3日の決勝に進出。150メートルのターンでは7番手と遅れていたものの、驚異的な追い込みで3位入賞を果たしたが、やはり選考会での代表内定は逃した。

結局、代表選考会で内定したのは19選手で、日本水泳連盟はリレー代表として谷口、村佐両選手を含む8選手を追加選考し、3月27日に発表した。

両選手は4月4日に学園首脳陣に向けて抱負を述べた。谷口選手は「今後もこのように結果報告ができるよう頑張ります」と意気込みを語り、村佐選手も「五輪では力を出し切り、日本を決勝に導きたいです」と決意を述べた。



谷口卓選手 ©共同通信社



村佐達也選手



陸上競技川端選手、連続出場を目指す

陸上競技のパリ2024オリンピック日本代表は6月27〜30日に新潟・デンカビッグスワンスタジアムで代表選手選考競技会を兼ねて開かれる第108回日本選手権大会の競技成績によってトラック、フィールド種目の代表選手が決まる。

そんな中で2021年の東京オリンピックに男子4×400メートルリレー種目で出場した川端魁人選手（スポーツ振興部、スポーツ科学部2020年度卒）が五輪への連続出場を目指している。東京では、第2走者として44秒台のラップタイムを刻み、3分0秒76の日本タイ記録をマークしたが、惜しくも決勝進出を果たせなかった。

それだけに「オリンピックで何としても入賞したい」というのが目標だ。2022年の世界リレー選手権でも日本チームを引っ張り、初めて3分の壁を破る2分59秒51の日本記録を樹立した。さらに、今年5月4

〜5日に中米バハマで開催された世界リレー選手権に男子4×400メートルリレーチームのアンカーとして出場。日本チームの4位入賞に貢献し、パリオリンピック出場権を獲得した。

陸上競技部の青戸慎司副部長がコーチを務め、「二人三脚」でトレーニングを続けており、真つ直ぐ目標に向かっていく。川端選手は世界リレー選手権を振り返り「3位に入れば悔しい気持ちでいっぱい。パリでは失敗できないので、生かしたい」と話し、青戸副部長は「順調に練習も積んでおり、焦らずに落ち着いて着実にやればよい。パリではメダルを取ってほしい」と期待する。



川端魁人選手（右から4番目）



愛知大学野球春季リーグ戦 完全試合達成

愛知大学野球春季リーグ戦は4月6日に開幕。昨秋のリーグ戦優勝の名城大を相手に素晴らしいスタートを切った。ただ、今季のスタートは「素晴らしい」という表現だけでは収まらない。「世紀の記録」として残る試合で幕を開けた。

それは何か。完全試合による勝利だ。しかも1-0、僅差での達成だった。

完全試合を達成したのは高木快大投手（スポーツ科学部3年）。昨春の開幕6連勝にもリリーフとして力を発揮し、今季は半田卓也監督、菊地啓太コーチも認めるエースに成長。94球の見事な投球で期待に応えた。読者のみなさんもご存じだろうが、付け加えると完全試合は投手だけの栄光ではない。四死球のないノーヒットノーランに加え、守備陣のエラーによる出塁も許されない。チーム全体の力で成し遂げられるのが完全試合なのだ。

愛知大学リーグの完全試合は59年ぶり3人目。翌日の各紙に1965年秋に愛知大の風和彦投手が名古屋大戦で記録して以来と報道されていた。実はリーグ第1号の完全試合は中京大だった。1963年春、金海現・大西秀允投手（商学部1964年度卒）が南山大戦で達成している。球数108球、14奪三振だった。つまり3人のうち2人が中京大生であり、大学70周年にまた大記録が増えた。

高木投手は「愛知大学野球連盟の長い歴史に自分の名前が残ることをうれしく思います。今後の試合につなげてリーグ優勝、日本一を果たして大学開学70周年に花を添えられるように頑張ります」とさらに前を向いた。また、半田監督は「開幕ゲームでプレッシャーがあるなか、最高の投球をしてくれた。野手にとってもしっかりと守ることができて良い経験になったと思います」と話した。



大橋誠スポーツ振興部部長 I F A F 世界U 20監督に就任

6月にカナダ・エドモントンで開かれるアメリカンフットボールの第1回I F A F世界U 20（20歳以下）選手権大会の監督に、アメリカンフットボール部ヘッドコーチの大橋誠スポーツ振興部部長が就任した。1月31日に日本連盟から発表された。18歳以上20歳以下の選手による大会で、今大会に出場できるのは2004年1月1日から2006年12月31日生まれの選手に制限される。中京大からは、アメリカンフットボール部の鋤柄颯選手（スポーツ科学部2年）が代表候補選手に入っている。代表選手は5月下旬に発表される予定だ。



鋤柄颯選手



大橋誠スポーツ振興部部長 photo:JAF/HUDDLE

中京大学 TOPICS



豊田キャンパス学生食堂リニューアルオープン！

豊田キャンパス2号館の学生食堂が今春、大規模リニューアルされ、健康的で栄養バランスのとれた食事を提供する新たな空間として営業を再開した。食堂の名前は学生を対象にした公募で、1階が「EAGLE TERRACE（イーグルテラス）」、2階は「HUGLE CAFE（チューグルカフェ）」と決まった。

注目されるのは、強度の高いトレーニングを行う学生アスリート向けの食事プランだ。ナショナルトレーニングセンター（NTC）やプロスポーツチームで提供される食事と同レベルのものを、アスリートだけでなく、すべての学生に安価に提供できるようになった。

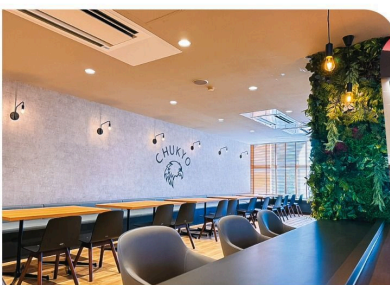
なかでも定食メニューは、主菜、副菜、ごはんの量が違う「LIGHT（ライト）」「STANDARD（スタンダード）」「HEAVY（ヘビー）」の3種類が用意されており、体格や競技特性に見合ったカロリーを適切に摂取できそう。これらは学生アスリートだけでなく、一般学生や教職員の健康維持を目指す新たな取り組みでもある。

2階には、カフェ併設の広々とした学生ラウンジがお目見えし、コンセント付きのソファで焼き立てパンやコーヒーが楽しめる。また、ランチ時の混雑緩和のためにモバイルオーダーの導入や提供が速くできる丼ぶりなどの新メニューの追加、テイクアウト用の丼など提供できるようになった。

3月29日には「中京大学食堂リニューアルお披露目会」が開かれ、梅村清英理事長らによるテープカットでオープンを祝った後、学食の命名者の学生や中京大学オリンピックなどに加わって試食を楽しんだ。参加者たちは一様に満足した表情で、今後の学食の成功を予感させる日となった。この新たな取り組みは学生や教職員だけでなく、地域住民の方々の健康維持にも寄与することを期待したい。



メニューの一例



学生広報スタッフ ライト撮影

オリンピック・パラリンピアンネームボードが完成

梅村学園のオリンピック・パラリンピアンを永く称えるための「ネームボード」が完成し、祝いのセレモニーが3月29日、豊田キャンパス3号館のスポーツミュージアムで、梅村清英理事長をはじめとする学園役員、ミュージアム関係者、高橋繁浩体育会長をはじめとした学園にゆかりのあるオリンピックたちも参加して行われた。

梅村理事長は「4年半の間に日本を代表するスポーツミュージアムとして成長し、大学としては日本一のスポーツミュージアム」と笑顔を見せた。さらに新年度から名誉館長となる木村吉次館長と二代目として館長を引き継ぐ来田亨子副館長（スポーツ科学部教授）に触れ、「（お二人には）中京大のスポーツの歴史が幅広く知られるようにしていただいた。さらに飛躍のご尽力をお願いします」と感謝とともに期待の気持ちを述べた。

その後、梅村理事長と来田副館長によって除幕が行われ、104人の輝くネームプレートが「100」という文字になるようにセットされたネームボードが姿を現した。100は梅村学園創立100周年を記念しており、来田副館長は「今後は大学開学70周年に合わせ、70に模様替えし、選手以外でオリパラに参加された人、サポートをされた人もネームプレートで掲載していきます」とさらなる進化を目指す。



イーグルススポーツスクールを開催

2021年度から豊田市と中京大学が協同で運営しているイーグルススポーツスクールの「サッカー部員と楽しむサッカー教室」が昨年12月2・9日の両日、豊田キャンパスのサッカー場で開かれた。

教室ではサッカー部員が講師を務め、ボールを使うた体づくり運動にはじまり、ドリブル、パス、シュートなど、技術の学びをゲーム形式で進めた。

同じく12月2日から、硬式野球部員による「はじめての野球教室」が16日まで5日間にわたって行われた。キャッチボールやバッティングなどの基本的動作を楽しみながら覚える教室で、毎回、多くの子どもたちが駆けつけて練習に励む姿が見られ、豊田キャンパスの野球場は熱気にあふれていた。

また、今年2月17、18日には「親子ダンス教室・キッズダンス教室」が豊田キャンパス6号館ダンス場で開かれ、ダンス部員が講師となり、親子で楽しめるストレッチや音楽に合わせて楽しく踊る内容で行われた。

2日間の教室を終えて、参加者や保護者からは「ダンスは初めての経験でしたが、コーチの方々に明るく盛り上げてもらい、とても楽しかったです」などの感想が寄せられ、指導した学生は「子どもたちの緊張した心身をほぐすために遊び要素を組み込んだ準備体操を取り入れました。そうすると徐々に笑顔が増え、子どもたち同士と一緒に踊る姿や、会話を楽しみ仲良くなつていく様子も見られ、ダンスの素晴らしさを改めて実感しました」と笑顔を見せた。

2024年度はこれまでの短期スポーツ教室に加えて、通年で実施される「ちびっこサッカー教室」や、スケート経験者が参加する「スキルアップスケート教室」などが新たに開講する予定だ。



イーグルス
スポーツスクールの
詳細・お申込みは
こちらから！



EVENT PICK UP

UNIVAS AWARDS
2部門で優秀賞

一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS:ユニバス）が主催するUNIVAS AWARDS 2023の表彰式が3月11日、東京品川インターシティホールで開かれ、中京大学は2部門で優秀賞を受賞した。UNIVAS AWARDSは、スポーツの競技成績だけでなく、学業の充実や安全安心も含めて大学スポーツの盛り上げに著しい成果を挙げ、ユニバスの理念の体現に貢献した学生、卒業生、指導者、団体などから選出して大学スポーツ全体の活性化に繋がることを目的にしている。

今年度は13部門に計154件の応募が寄せられ、中京大は個人、団体それぞれ1部門の優秀賞に選ばれた。個人のコーチ・オブ・ザ・イヤー受賞は女子ソフトボール部の二瓶雄樹部長・監督で、チームを過去3度の大学日本一に導き、文部科学大臣杯でも上位の成績を収めており、指導力の高さも評価された。また、2018年からはJICAと連携し、アフリカ・ボツワナでのソフトボールを通じて青少年育成活動に尽力していることなども認められた。

また、団体部門ではスポーツ統括部局/SA賞にスポーツ振興部が選ばれた。同部はスポーツに関心のある人を増やすための企画を継続的に検討しており、今回は「中京大学スポーツの魅力」というテーマでフォトコンテストをSNS上で行



©UNIVAS

い、普段スポーツに関わりがない層へのアプローチを試みた。結果的に在学生や卒業生、教職員を含め計174件の応募があり、さまざまな層が中京大のスポーツに興味、関心を持つきっかけになったことが評価された。

体育会主将対象「2023年度
リーダーズキャンプ」を開催

2月21日、ユニバスと連携し、体育会各クラブの主将を対象とした「2023年度リーダーズキャンプ」を開催した。リーダーズキャンプは、運動部学生がそれぞれの立場からリーダーシップを発揮することを理解することで、組織強化・競技レベルの向上へ繋げること、競技種目を問わず横断型の交流を行うことで様々な視点や価値観を共有し、課題解決の幅を広げること、競技だけでなく社会人として求められるリーダー像の重要性を学ぶことなどを目的として実施している。

ユニバスとの共同開催は初の試みで、ユニバスの「スポーツを通じた人間力育成支援を推進するモデル大学」に採択されたことにより開催が実現した。

コロナ禍以前は毎年行われていたリーダーズキャンプ。今回は2019年度以来の開催となったが、体育会の各クラブ主将を中心とした代表の51人の学生が参加し、講義の受講やグループワークなどを通じて競技や学年の垣根を越えた交流を行った。



参加した学生のコメント

- ・グループワークを通してクラブごとに抱えている課題は様々であることがわかり、チームの特性に合わせたリーダーシップを発揮することが大切だと思いました。
- ・今までリーダーという立場に苦手意識がありましたが、自分の長所を活かしたリーダーシップの重要性を学ぶことで、自信に繋がりました。

2023年度中京大学卒業式
各選手が取材に対応

中京大学2023年度卒業式は3月19日、名古屋市のNiterira日本特殊陶業市民会館で行われ、学部生2699人、大学院生77人が晴れの日を迎えた。式では大学院、学部各代表への学位記・卒業証書の授与、学業や課外活動などで優秀な成績を収めた学生へ各賞が贈られ、学長の式辞を受けて各学部の代表がそれぞれの大学生活の思いと謝辞を述べた。

そして式典終了後、バトントワリング競技の北村涼乃選手（経営学部）とフィギュアスケートの山本草太選手（スポーツ科学部）が報道関係者の取材を受けた。北村選手は昨夏、イギリスで行われたIBTF世界選手権のスリーバトンのアダルト部門で準優勝を果たした。「競技と学業の両立ができたのはゼミの先生の支えがあってこそ。感謝の気持ちでいっぱいです」と話し、卒業後もアスリートとして世界のトップを目指す傍ら「この競技をもっと多くの人に知ってもらいたい」と目標を語った。

また、FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズのフィギュア男子シングルで優勝、昨年10月のスケートカナダでグランプリシリーズ初優勝を飾った山本草太選手は大学時代に印象に残っている試合を聞かれ、「シニアの大会で思うように結果が出せていなかったのですが、2022年のグランプリファイナルで銀メダルを取れたのが大きな転機になったと思います」と振り返り、2年後の五輪について「次の五輪は目標と言える距離まで近づいて来た手応えを感じています」と意気込みを語った。



山本草太選手

北村涼乃選手

\\ 附属高校の最新ニュースをお届け! //

《 中京大中京高校 News 》

News

フィギュアスケートインターハイ

第73回全国高等学校フィギュアスケート選手権大会が1月17〜21日に茨城県ひたちなか市の山新スイミングアリーナで開催、中京大中京高校の吉田陽菜選手(木下アカデミー所属)が優勝した。この春、高校を卒業した吉田選手は高校時代の思い出として「勉強もスケートも充実した3年間でした」と振り返った。

学校対抗では、全日制課程は吉田選手と共に、高岡もも選手、門田桃愛選手の3人で出場し準優勝。通信制課程は3月の世界ジュニア選手権に出場した榎田育良選手(木下アカデミー所属)と共に杉山菜那選手が出場し4位の成績を収めた。

News

中京大中京高校 新入生入学

フィギュアスケートで世界ジュニア選手権2連覇を達成した島田麻央選手(木下アカデミー所属)が中京大中京高校の通信制課程に入学した。動画でメッセージを寄せた島田選手は「たくさん自分を成長させるための1年間にしたいです」と意気込みを語った。

また同学年には、ジュニアグランプリファイナル優勝の中田璃土選手(TOKIOインカラム所属)も通信制課程に入学し、2023年1月の全国中学生大会で優勝した田内誠悟選手は全日制課程に入学した。



島田麻央選手

Aim High Chukkyo

田中恒成選手



プロボクシングの世界タイトル戦3試合を1つの会場で行う「超ビッグイベント」トリプル世界戦が2月24日、東京・両国国技館で行われ、世界ボクシング機構(WBO)スーパーフライ級1位の田中恒成選手(経済学部2018年度卒、畑中)はクリスチャン・バカセグア選手を3-0の判定で破り、世界チャンピオンの座を獲得した。田中選手はすでにミニムム級、ライトフライ級、フライ級の3階級で王座獲得をしており、日本男子3人目の4階級制覇を21戦目という最速で達成した。

試合は序盤から田中選手が効果的なパンチを繰り出してリードを奪った。ボディーやアッパーを的確にヒットさせ、大差の判定勝ちでチャンピオンベルトを手にした。後日、畑中ジムで練習中の田中選手を訪ね、「いいボクシングだったね」と言うと、「試合終了のゴングと同時に感じたのは悔しさでした」と振り返った。「思い通りの試合運びで倒せると思った。倒さなきゃ」とノックアウトできなかったのを悔やんだのだ。

田中選手は大学2年で最軽量のミニムム級世界チャンピオンとなり、そのころ、すでに5階級制覇を目標にしていたような記憶がある。「今後の目標は?」やはり「バンタム級を制覇して5階級制覇を目指したい」と返ってきた。ただ、その前にスーパーフライ級の世界で1人のチャンピオンになりたいです。

どういふことか。実はボクシング界には現在、田中選手のWBOのほか、世界ボクシング評議会(WBC)、世界ボクシング協会(WBA)、国際ボクシング連盟(IBF)と計4団体があり、それぞれにチャンピオンが存在する。それを統一したいというわけだ。今後もチャレンジは続くが、まずはWBOスーパーフライ級の防衛戦からとなる。「今年中にあと2試合をイメージしています。次の試合は夏になるでしょう」と連日、2人のトレーナーとともに練習に励んでいる。



©共同通信社

読者アンケート

スポーツマガジン「中京大学スポーツ」をお読みいただきありがとうございます！

今後の掲載内容をより良いものにするために、読者の皆様のご意見・ご感想などをお聞かせください。

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で5名様に「チューグルグッズ」をプレゼントさせていただきます！



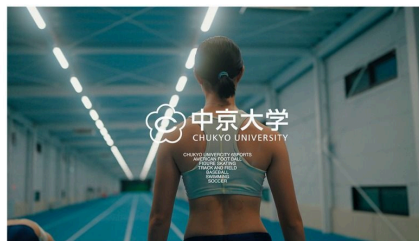
こちらからご回答
いただけます



CHUKYOイーグルマスコットキャラクター
「チューグル」

CHUKYO 6 SPORTSの PR動画を制作しました！

強化スポーツクラブ協力のもと、動画を制作しました。
ぜひご視聴ください！



CHUKYO 6 SPORTSとは...

中京大学スポーツのめざす「競技力向上と社会貢献活動」をより一層推進していくために創設されたプロジェクトで、強化スポーツに指定している6競技（硬式野球・サッカー・陸上競技・水泳・アメリカンフットボール・スケート）を横断的に、複数企業がサポートする産学連携による取り組みです。

動画のご視聴は
こちら



中京大学スポーツ振興部のSNSもチェック！



Instagram



Facebook



X



Youtube